

平成 15 年 3 月期 第 3 四半期業績概況

平成 15 年 2 月 10 日

上場会社名 **ダイコク電機株式会社**

(コード番号：6430 東証・名証第二部)

(URL <http://www.daikoku.co.jp>)

代 表 者 代表取締役社長 小山 晴久
 問合せ先責任者 取締役総務センタ長 伊藤 茂年

TEL (052) 581-7111

1. 四半期損益計算書等の作成等に係る事項

四半期業績の公表は、当第3四半期より開始いたしましたので、前年同期の数値については、業績比較の参考資料として集計した数値を掲載しております。

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 (中間財務諸表規則)

- ・会計処理方法の変更の有無 : 無
- ・中間決算等と異なる会計処理の有無 : 無
- 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 無

2. 平成 15 年 3 月期第 3 四半期の業績概況 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績 (単体) の進捗状況

(百万円未満切捨て)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
15 年 3 月期第 3 四半期(9ヶ月累計)	32,431	(22.9)	5,788	(108.5)	5,891	(78.1)
14 年 3 月期第 3 四半期(9ヶ月累計)	26,387		2,776		3,307	
(参考) 14 年 3 月期	35,978		3,535		4,272	

	当期 (四半期) 純利益		1 株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 当期純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
15 年 3 月期第 3 四半期 (9ヶ月累計)	3,202	(84.2)	242	75	-	-
14 年 3 月期第 3 四半期 (9ヶ月累計)	1,738		96	56	-	-
(参考) 14 年 3 月期	1,907		106	25	-	-

(注) 期中平均株式数 15 年 3 月期第 3 四半期 13,191,173 株 14 年 3 月期第 3 四半期 18,000,000 株
 14 年 3 月期 17,957,127 株

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益における () 内の数値は、対前年同期増減率

[経営成績 (単体) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における我が国経済は、設備投資、雇用情勢、個人消費等が低迷し、依然として厳しい状況が続いております。

当社が関わるパチンコ業界も設備機器市場は依然厳しい状況下にありますが、第3四半期末の12月は人気のあるパチンコ遊技機「CR新海物語」の登場により、ここ数年の年末に比べ、新店や新装開店の件数が大幅に増えました。

当社は一層の販売努力と原価低減、販管費の効率化に努め、当第3四半期累計の業績は、売上高は324億31百万円(前年同期比22.9%増)、営業利益は57億88百万円(前年同期比108.5%増)、経常利益は58億91百万円(前年同期比78.1%増)、当期純利益は32億02百万円(前年同期比84.2%増)となりました。

事業部門別の業績は次の通りであります。

情報システム事業部門では、昨年6月発表の日本遊技機工業組合(日工組)の内規変更に対応したパチンコ遊技機の台管理をテーマにセミナーを積極的に開催し、コンサルタント営業強化に取り組んだ結果、年末商戦でパチンコホール向けの総合営業管理システムであるホールコンピューティングシステム「C」の売れ行きが好調に推移いたしました。これにより、従来製品との世代交代が進み、プレジャービジョンなどの情報公開システムや景品管理POSなどの景品顧客管理システムとのセット販売の比率がアップしたことから売上高累計は、169億28百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

制御システム事業部門では、当社ユニットを搭載した過去の大ヒット機種の後継機が人気を集めたことと、当部門が提案してきた新内規対応の各機種が市場で評価されたことから、売上高累計は、155億2百万円(前年同期比46.9%増)となりました。

(2)財政状態（単体）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
15年3月期第3四半期(9ヶ月累計)	47,743	18,900	39.6	1,278	43
14年3月期第3四半期(9ヶ月累計)	41,900	20,646	49.3	1,147	02
14年3月期	42,245	14,997	35.5	1,173	13

(注) 期末発行済株式数 15年3月期第3四半期 14,783,900株 14年3月期第3四半期 18,000,000株
14年3月期 12,783,900株
期末自己株式数 15年3月期第3四半期 -株 14年3月期第3四半期 -株
14年3月期 -株

[財政状態（単体）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期の財政状態は、総資産については現預金、売上債権の増加により、前期末と比べ54億98百万円増加し477億43百万円となりました。

株主資本については、上場による増資と当期末処分利益の増加により、前期末と比べ39億03百万円増加し189億円となりました。

3. 平成15年3月期の業績予想（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金	
	百万円	百万円	百万円	円	銭
通 期	39,000	4,900	2,600	42	00

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 191円40銭

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては下記をご参照下さい。

[業績予想（単体）に関する定性的情報等]

通期の業績見通しにつきましては、第3四半期までの業績が非常に好調に推移したことで第4四半期の業績予想を勘案した結果、中間期の公表数値を上方修正し、売上高は390億円（前年同期比8.4%増）、経常利益は49億円（前年同期比14.7%増）、当期純利益は26億円（前年同期比36.3%増）と予想しております。

なお、第3四半期業績に対して利益が減少するのは、情報システム事業においては、例年1月、2月の売上が低く、販管費が第4四半期に集中することによります。

【通期の見通しに関する注意事項】

本資料中に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的风险や不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。